

第66期 第1回目男女共同参画推進委員会 議事録(案)

日時:2010年9月18日(土)

場所:日本物理学会会議室

出席:笹尾、門野、鳥居、嘉規、栗本、高山、江尻、村上、湯浅、興治、松尾、松島、田島、坂東(敬称略、順不同)

欠席:二宮、有光、加賀山(敬称略、順不同)

0. 本回は新旧合同委員会とすることを了承し、新旧委員の自己紹介を行った。

1. 前回議事録確認

前回の書記は加賀山委員だったとの指摘があり、文責を加賀山さんに変更することになった。議事録案そのものを入れ替えることとし、メール審議することになった。

2. 役割分担

新人委員は一つ担当、継続委員は二つ以上担当する。

1) 副委員長

高山委員が担当する。

2) 学協会連絡会運営委員会担当:

- 門野委員、江尻委員、笹尾委員長、(富樫さん、鳥養さん)が担当する。
- 年4回の運営委員会へ出席する。
- 学協会連絡会からの連絡を委員、triangle 等に転送する。
- 学協会連絡会への連絡は富樫さんが行う。

3) 広報

- 仕事内容は、物理学会誌に記事を書くこととHPの維持。現在HPはNIIが運営費なしで運営してくれているが、キャリアセンターが独自に専用サーバーをもっているため、そこと一緒にすることになった。
- HPは栗本委員(技術)と村上委員(窓口)が担当する。
- 会誌対応は、二宮委員、笹尾委員長が行う。記事の候補として、連絡会のホームページにある松尾前委員長がまとめた提言が推薦された。松尾前委員長、笹尾委員長と二宮委員で相談して進める。
- 委員長は会誌の巻頭言をかくことになっている。

4) 女子中高生啓発担当

- 仕事内容は、女子中高生のための夏の学校の運営と実行委員会への出席。

- 嘉規委員、興治委員、湯浅委員が担当する。

5) 年会シンポジウム担当

鳥井委員が担当する。

6) アンケート分析及び報告書担当

江尻委員、門野委員が担当する。

3. 前期活動報告

1) 松尾前委員長より資料 5(日本物理学会のこの1年)をもとに報告があった。あわせて、資料 4 の提言について説明があった。学協会連絡会の加盟学会であった日本天文学会がオブザーバになった。

2) 松島前委員、嘉規委員より、資料 2 をもとに夏学について報告があった。

- 物理学会は、実験・実習とポスターを企画した。

- ポスターの設営は電源や配置等で今後工夫をしてほしい点を、次回の運営に伝える。

- ビデオ上映は難しいことがわかった。

- 委員への日当は、決まったルールはない。

4. 学協会連絡会報告

1) 松尾前委員長より資料 3(第 8 期第 4 回男女共同参画学協会連絡会運営委員会 メモ)をもとに報告があった。

- 10 月 7 日のシンポジウムは理研が会場(詳しい資料として資料 6)

2) ワークライフバランス

- 門野委員よりシンポジウムでの分科会開催は見送ることにしたとの報告があった。

- 江尻委員よりアンケートの分析結果について、資料(資料番号なし)をもとに説明があった。

特に注目する結果として図 9,10 がある。

図 10: 研究者の長時間労働(10 時間から 20 時間)の傾向がみえる

図 9: 物理系は少ないほう、生命系はプラス 5 時間

- 田島元委員長より大阪大学で実施した労働時間調査について以下のような紹介があった: 3000 人の(常勤職員)のうち 2 割から回答があった。2 回の調査の結果から、労働時間は 60 から 70 時間であることがわかった。生物系は長時間の傾向がある。また生物系は、学生の 4 割が女性だが教員は男性の方が多い。職場環境尺度(自由に休みはとれるか、情報共有、上司は信頼できるかなど)と労働時間には相関が有ることがわかった。しかし研究業績(論文数)と

長時間労働との相関はない。最近のプロジェクト研究では、長時間労働になりやすい。核融合研究所は労基署の指導もあり、労働時間が厳しく監視されている。

- 若い人へのメッセージを検討する必要がある。
- 男性のロールモデル(ワークライフバランスをとっている方)を紹介する。

5. 学協会連絡会シンポジウムの準備について(資料6)

松尾前委員長が午後の全体会議の司会を行うので、物理学会は10月7日の当日の仕事は免除された。ポスターは笹尾委員が作成する。シンポジウムには門野委員、嘉規委員、鳥井委員、江尻委員、富樫さんが出席し、ポスター発表に適宜対応する。

6. 年会シンポジウム

1) 次回の年会は、2011年3月25日-28日に新潟大学で開催される。前回のテーマは「ポジティブアクション-加速する女性研究者育成事業と今後の展望」だった。今回のテーマはワークライフバランスで、基調講演とパネルを企画する案が議論された。

- 基調講演:講師の候補として、横浜の副市長と東レ研究所の佐々木さんの名前があがった。
- パネル:前回は50人程度の参加で参加者は多くなく、聞いてほしい人が来なかった。委員会として正式なシンポジウムなので、案内を全体MLに発信することになった。
- 物理学会のシンポジウムは10月に申し込まなければならないので注意。

2) 笹尾委員長より関連事項として、東北大学主催の杜の都ジャンプアップ事業(資料は席上回覧)について紹介があった。

- 九大の状況:女性枠を設けても応募者が少ないとおもわれていたが、百名以上の応募者があった。うち数名が採用された。
- 東大の状況:専門分野を限らないという募集で、理学部で数十名以上の応募があった。物理系でも十名以上の応募があった。男性でも専門分野を限らないという募集を行うと、優秀な方が集まるのではないか、という議論があった。
- 産総研の澤田さんの論文が公開されている。出典を探す(坂東さん担当)。

7. AAPPSとIUPAPへの代表派遣について

1) 資料7をもとにAAPPS/APPC11について説明があった。11月14日-18日にかけて上海で開催されるこの会議は、本会議とワークショップで構成されている。笹尾委員長、松尾前委員長、田島元委員長が出席する。旅費はもう一人分くらいあるので希望者があれば知らせて欲しい。応物学会の渡辺さんが日本代表窓口となっている。

2) 資料 8 をもとに ICWIP/IUPAP について説明があった。第 1 回のパリでの会議を経て本委員会が発足したという経緯がある。前回のソウルには十数名が参加した。国で一つのチームを作り(3 名以上、少なくとも 1 人以上の男性もしくは学生を含むこと)、チームで一つのカントリーペーパーを準備し、ポスター発表を行う。サイエンスのプレナリトークが午前中に 2 つあり、午後はパラレルトークとなっている。応物学会から、1、2 名が出席予定。物理学会からも 1、2 名派遣する(田島元委員長以外) 予定で、日本から計 5 人位までが出席する。物理学会は国際交流枠で取り扱う。興治委員、嘉規委員が参加予定。合計で 5 名内外となる。男性の参加者を募る。

8. その他

1) ネットコメンテータ

元委員、前委員にネットコメンテータのメンバーになっていただいております、人数が増えている状況である。委嘱状に関わる物理学会の事務量をおさえるために、ネットコメンテータの定義を以下とすることになった。

ネットコメンテータの定義:

一つ前の委員会のメンバー、歴代委員長、次に委員をしてくれるような候補者には委嘱状をだすものとする。他の方はサポートスタッフとする。トライアングル ML におくっていたメールはサポートスタッフへも同様にだす。

2) 興治委員よりの質問

物理教育委員会へ本委員会の活動内容をだしてよいか、という質問がありました承された。

3) 今後について

学協会シンポへの対応、年会シンポの申し込み、上海への出張などがある。あわせて情報発信、夏学の準備等を進める。

4) 次回について

次回会合は年会シンポジウムの前で、2 月の末から 3 月にかけて開催予定。別途日程調整を行う。

以上

書記係:湯浅